

平成29年度(2017年度)

管理事業名	図書館事業				総合計画の体系	第4章 第2節	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり 生涯にわたり楽しく学べるまちづくり		
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 10	教育費	(項) 5	社会教育費	(目) 4	図書館費		
部局名	地域教育部	予算執行所属		中央図書館					
予算大事業名 施設管理事業 図書館サービス事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名 (款)教育費 (項)社会教育費 (目)(仮称)健都ライブラリー建設費、(仮称)健都ライブラリー整備事業								
事業の目的と概要 図書館法第2条に基づき図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション、視聴覚教育等に資することを目的とします。 中央図書館と6つの地域館と2つの分室で事業を実施しています。また、中央図書館には自動車文庫1台を配備し、図書館から離れた地域に月1回巡回し事業を実施しています。多様化する市民一人一人の生涯学習を支援し、教養や文化に資することにより教育活動の充実を図ります。									

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	成果指標の定義
貸出点数	点	3,543,194	3,640,172	3,606,660	図書館で貸出された資料の点数 (個人貸出、団体貸出・広域貸出を含む)
来館者数 〔 〕内は延貸出利用者数	人	[880,096]	1,992,476 [929,962]	1,958,047 [919,121]	市内の図書館における来館者数 (ただし、北千里分室及び山田分室は延貸出利用者数)
成果	・「吹田市立図書館基本構想」を策定し、計画を実施しています。 ・平成27年度に、ICタグ導入・システム更新をしました。図書館利用がさらに便利になり、平成28年度は貸出点数が過去最高となりました。機器の更新に伴い、北千里分室・山田分室を除く7つの図書館で来館者数が把握できるようになりました。貸出だけでなく、すべての図書館サービスの成果が把握できるため、平成28年度から事業の成果の指標を「来館者数」に変更しました。 ・平成29年7月より、北摂地区全域で公立図書館の広域利用サービスを開始しました。大阪市についてもさらに拡充の方向で検討します。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	199	229	228	△1
府支出金(経常費用充当)	99	115	10,514	10,399
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	3,307	3,750	1,904	△1,847
経常収入 小計(a)	3,605	4,094	12,646	8,551
給与関係費	481,136	453,156	463,443	10,287
物件費	449,485	428,157	498,360	70,204
維持補修費	21,580	3,094	3,802	708
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	12,717	12,842	12,930	88
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	116,066	137,116	137,116	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	29,921	28,426	29,449	1,023
退職手当引当金繰入額	32,023	△6,381	34,968	41,349
支払利息	22,271	20,506	18,696	△1,810
その他	28,832	28,415	48,039	19,625
経常費用 小計(b)	1,192,031	1,105,331	1,246,803	141,472
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△1,188,426	△1,101,236	△1,234,158	△132,921
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	10,600	12,026	4,979	△7,047
特別収入 小計(d)	10,600	12,026	4,979	△7,047
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	0	-	△0
その他	1,036	4,905	4,372	△533
特別支出 小計(e)	1,036	4,905	4,372	△533
特別収支差額(d)-(e)=(f)	9,564	7,121	607	△6,514
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△1,178,862	△1,094,116	△1,233,551	△139,435
一般財源充当額	1,257,889	1,229,427	1,294,946	65,518
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	79,027	135,312	61,395	△73,917

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
府支出金 (経常費用 充当)	大阪府市町村振興補助金(10,400千円) 大阪府市町村地域支援事業費等補助金(114千円)
物件費	窓口等業務委託料(233,658千円)施設管理委託料(84,154千円)光熱水費(29,672千円) 主に(仮称)健都ライブラリー整備のための基本設計と埋蔵文化財調査(36,473千円)、PCB廃棄物処理委託費(20,122千円)の増
その他経常費用	平成28年度の仕訳区分の誤りにより平成29年度経常損益で訂正

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	3,605	2,386	12,646	10,260
行政サービス活動支出	1,056,146	977,673	1,057,651	79,978
行政サービス活動収支差額	△1,052,541	△975,287	△1,045,006	△69,718
投資活動収入	7,900	8,500	1,361	△7,139
投資活動支出	62,776	76,121	63,655	△12,467
投資活動収支差額	△54,876	△67,621	△62,294	5,328
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	150,472	186,519	187,646	1,128
財務活動収支差額	△150,472	△186,519	△187,646	△1,128
収支差額 合計	△1,257,889	△1,229,427	△1,294,946	△65,518
一般財源充当額	1,257,889	1,229,427	1,294,946	67,243
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動収入)大阪府市町村振興補助金【図書館システム更新分】(投資活動収入)耐震改修等補助金(財務活動支出)千里ニュータウンプラザのPFI債務返済、図書館建設地方債償還金
----------	--

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
貸出1点あたりのコスト	平成27年度	3,543,194 点	336 円	資料の貸出1点あたり346円のコストがかかっています。(仮称)健都ライブラリー整備やPCB廃棄物処分に経費が多かったため、下欄も含め前年度よりコストが増えています。
	平成28年度	3,640,172 点	303 円	
	平成29年度	3,606,660 点	346 円	
来館者1人あたりのコスト	平成27年度	880,096 人	1,354 円	来館者1人あたり637円のコストがかかっています。(平成28年度から図書館全体のサービスの成果を表す指標を来館者数に変更しました。)
	平成28年度	1,992,476 人	554 円	
	平成29年度	1,958,047 人	637 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	216,072	218,240	2,167
未収金	-	-	-	地方債	87,157	88,302	1,145
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	28,426	29,449	1,023
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	66,129	66,129	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	34,360	34,360	-
有形固定資産	2,982,845	2,838,527	△144,318	固定負債	1,624,897	1,439,081	△185,817
土地	750,495	750,495	-	地方債	637,329	549,027	△88,302
建物・工作物	1,966,393	1,900,667	△65,726	長期借入金	-	-	-
リース資産	253,495	187,366	△66,129	退職手当引当金	319,159	322,133	2,974
建設仮勘定	12,463	-	△12,463	リース債務	187,366	121,237	△66,129
無形固定資産	1,459	1,459	-	その他固定負債	481,044	446,684	△34,360
有形固定資産	-	-	-	負債の部合計	1,840,970	1,657,320	△183,649
土地	-	-	-	純資産	3,313,244	3,377,732	64,488
建物・工作物	-	-	-	重要物品	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	図書館資料	2,147,084	2,174,408	27,324
重要物品	22,826	20,658	△2,168	投資その他の資産	-	-	-
図書館資料	2,147,084	2,174,408	27,324	出資金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
基金	-	-	-	基金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
その他債権	-	-	-	その他債権	-	-	-
資産の部合計	5,154,214	5,035,052	△119,162	純資産の部合計	3,313,244	3,377,732	64,488
				負債及び純資産の部合計	5,154,214	5,035,052	△119,162

Ⅲ 財務構造分析

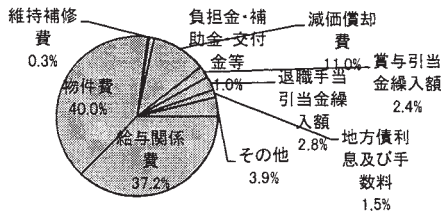
▽人にかかるコストの内訳

事業従事人数	常勤・再任用		非常勤	臨時雇用員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均	月平均	年間従事日数	実人数		
事業従事人数	47.5 人	26 人	4,106 日	15 人	15 人	527,860
給与関係費等	411,139 千円	83,460 千円	33,076 千円	185 千円		
内、時間外勤務手当	6,676 千円					

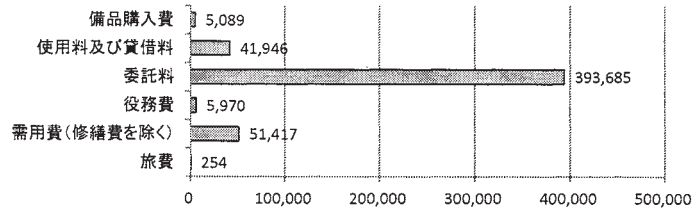
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	図書館建物ほか減価償却による65,726千円の減
図書館資料	貸出閲覧用資料の購入等により27,324千円の増
リース債務	図書館システムのリース資産に係る債務の返済により66,129千円の減

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市立中央図書館ほか8施設
取得年月日	昭和46年(1971年)10月1日ほか
建物・工作物の取得価額	3,052,817 千円
建物・工作物の減価償却累計額	1,152,150 千円
利用料金収入	- 千円

▽分析指標

分析指標	(単位:%)				
	年度	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		0.7	0.1	0.1	0.0
施設老朽化比率		33.3	35.5	37.7	2.2
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		99.1	99.0	98.9	△0.1
経常費用対公共資産比率		39.1	36.2	40.8	4.6

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

事業にかかるコスト全体の40%が物件費で、そのうち委託料が79%を占めています。委託料の約6割は人件費に相当する窓口等業務委託料で、図書館の人件費と合わせると、経常費用の56%が人的経費となります。
市内の図書館の施設老朽化率は市保有施設全体と比べて38%と低い数値ですが、平成23年以降に建てられた3施設を除くと63%になり、特に中央図書館は93%と高くなっています。
国や府からの補助金以外の収入として、営業者から支払われる駐車場などの行政財産使用料(1,252千円)やバナー広告などの広告料収入(60千円)など一部収入がありますが、99%が税金などの一般財源でまかなわれている事業です。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

事業コストのほとんどが窓口等業務委託料を含む人的経費です。360万円を超える貸出に係る業務量及び読書活動推進に係る業務、資料の調査相談など、図書館サービスに必要な経費であると判断しています。一方で、平成27年度にIoTタグ関連機器を導入したことで、貸出点数が伸び、図書館システム更新の効果が表れています。
中央図書館は、昭和46年(1971年)に建設され46年が経過し、老朽化率93%に示されるように空調設備他の修繕が多発しています。平成29年度に耐震診断を実施した結果、大地震(震度6強から7程度)発生時には倒壊または崩壊の危険性が高いことが判明しました。中央図書館は、全市の図書館の中心館として、企画政策部門を担うとともに、資料の保存機能を有しており、欠くことのできない施設となっています。耐震補強を含む必要な改修を行うことが喫緊の課題となっています。その他に北千里分室も老朽化率が76%と高くなっており、北千里駅前再整備に合わせ整備の検討が必要です。(仮称)健都ライブラリーについては、平成32年度の閉館を目指して整備をすすめています。
収入については、図書館法第17条で入館料その他図書資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならないとされており、基本的に無料の施設であるためほとんどありません。しかし、一般財源を少しでも減らせるように、ホームページのバナーや貸出レシートへの掲載に係る広告収入のほか、大阪府市町村振興補助金なども含めた歳入の確保に努めており、今後も引き続きコスト削減を検討していきます。